

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地														
専門学校日産愛知自動車大学校		平成5年3月23日	松川 健一	〒455-0015 愛知県名古屋港区港栄1-7-12 (電話) 052-653-4123														
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地														
学校法人日産学園		昭和58年2月15日	伊藤 由紀夫	〒329-0606 栃木県河内郡上三川町大字上郷字南西原2120番地 (電話) 0285-56-3585														
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士													
工業	工業専門課程	一級自動車工学科		—	平成20年文科科学省告示第16号													
学科の目的 自動車整備に関する専門的技術及び理論を教育し、整備技術の進歩発展を通じて、社会に貢献できる人間性豊かな整備士を育成することを目的とする。																		
認定年月日 平成28年2月19日																		
修業年限	昼夜	講義		演習	実習	実験												
	3.600時間	1,276.8時間		—	2,801.6時間	—												
4年	昼間					単位時間												
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数												
200		132人	0人	5人	8人	13人												
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～翌年3月31日			■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 規程出席率の充足、筆記試験、実習試験、授業態度、提出物 成績表記:優(80点以上)、良(70点以上)、可(70点未満)														
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月1日～8月21日 ■冬季:12月21日～1月7日 ■学年末:3月31日			卒業・進級条件 学科、実習ともにテーマ終了後に試験し、70点以上で履修とする。必修、自由選択にかかわらずすべての教科において未履修がなければ進級・卒業を認める。														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任による本人面談・三者面談、クラス担任による学修相談、教科担当による補習授業、学年統括による生活指導、専門カウンセラーによるカウンセリング、学生動向の学年情報共有など			■課外活動の種類 スーパー耐久レース エコラン部、レーシング部、カート部、ラジコン部、モーターサイクル部、自転車部、軽音楽部など														
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 日産自動車、日産オートモーティブテクノロジー、愛知機械工業等の日産圏企業、日産販売会社を中心とした自動車業界			■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年6月17日時点の情報)														
	■就職指導内容 オリジナルテキストを用いたキャリア形成教育、外部講師によるキャリア育成教育、就職先採用担当者による就職ガイダンスなど																	
		■卒業生数 37 人 ■就職希望者数 36 人 ■就職者数 36 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 97.3 % ■その他 家庭の事情により就職を希望しない学生1名 (平成30年度卒業生に関する令和元年6月17日時点の情報)		<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1級小型自動車整備士</td> <td>②</td> <td>37人</td> <td>28人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	1級小型自動車整備士	②	37人	28人				
資格・検定名	種	受験者数	合格者数															
1級小型自動車整備士	②	37人	28人															
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																		
中途退学の現状	■中途退学者 9 名 平成30年4月1日時点において、在学者132名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者123名(平成31年3月31日卒業生を含む)			■中退率 6.8 %														
■中途退学の主な理由 学力不振、経済的理由、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担任による定期的な個人面談、専門カウンセラーによるカウンセリングなど																		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生奨学金(学業成績優秀者)、遠隔地奨学金(自宅通学が困難で入寮希望)、女子奨学金(学業成績優秀な女子)、企業推薦奨学金(日産販売会社が推薦する優秀者)、就学支援金(困窮世帯) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																	
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 JAMCA(全国自動車大学校・専門学校協会)による、文科省委託事業(第三者評価の実証研究)として受審。 2016年11月25日に受審。結果については、文科省委託事業報告として公開。																	
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.nissan-gakuen.ac.jp/school/aichi/">https://www.nissan-gakuen.ac.jp/school/aichi/</a>																	

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文科科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科令第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者(希望者)をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか「就職者数(関連分野)」は「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また「その他」の欄は「関連分野へのアルバイト者数や准卒

3. 主な学修成果(※3)  
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

卒業生の就職先である自動車整備業界の要請に応じ、実践的かつ専門的な職業教育を組織的に実践するために、また日々進化する自動車技術に対応するために、企業等と定期的な会合を持ち、養成内容を把握し、具体的な授業科目や教育内容の編成に落とし込むことを基本方針とする。

また企業等に協力をいただき、卒業生に対する定期的なアンケートを実施し、教育の成果を把握し、授業編成に反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成に活かすことを目的に設置する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
高木 靖雄	日本機械学会 (東京都市大学 工学部 名誉教授)	平成30年1月1日～令和元年12月31日(1年)	052-653-4123
林 義正	㈱YGK 執行役員	平成30年1月1日～令和元年12月31日(1年)	③
北村 正人	日産自動車(㈱)アフターセールス本部アフターセールスマーケティング部 主担	平成30年1月1日～令和元年12月31日(1年)	③
小林 敏明	㈱ダイバージェンス	平成30年1月1日～令和元年12月31日(1年)	②
清水 正美	京都府自動車車体整備協同組合	平成30年1月1日～令和元年12月31日(1年)	①
大森 一也	日産自動車 グローバルアフターセールス事業本部	平成30年1月1日～令和元年12月31日(1年)	③
以下学内委員			
鳥井 英雄	学校法人日産学園 教育企画部 部長代理	平成30年1月1日～令和元年12月31日(1年)	
川上 宏美	学校法人日産学園 専門学校日産京都自動車大学校 校長	平成30年1月1日～令和元年12月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回以上 開催時期 5月、3月

(開催日時)

平成29年度 平成29年5月26日 13:00～15:00

平成29年度 平成30年3月05日 10:00～10:20

平成30年度 平成30年5月17日 13:00～15:00

平成30年度 平成31年3月05日 10:00～11:00

平成30年度 平成31年3月11日 10:00～11:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

国土交通省でカリキュラムが決まっているので、どのように時間割を組むのか、国土交通省と自動車整備士の国家試験の関係上、どのようにするか学内検討中。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

しっかりした基礎的技術を修得することをベースに、就職後に必要とされるお客様対応技術、電気自動車を中心とした新技術など、実践的かつ専門的な実習を、企業等の要請に基づいて実施する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実際の整備・点検を体験し、学校の実習との違いを肌で感じさせる。  
企業からの技術情報を基に授業内容と評価基準を定めている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ステアリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーステアリングの構造・作動を理解する。</li> <li>・パワーステアリングの点検、故障が判断できる。</li> <li>・P/Sフルードのエア抜きが正しくできる。</li> <li>・ステアリング関連部品の脱着ができる。</li> </ul>	日産自動車株式会社
エアコン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷凍サイクルの圧力点検と温度の測定ができる。</li> <li>・冷媒ガスの回収と充填ができる。</li> <li>・ファンモータ回路、コンプレッサ回路、電動ファン回路の点検ができる。</li> <li>・配線図より回路を抜き出し、回路の流れを理解する。</li> <li>・不具合についての点検方法がわかる。</li> </ul>	日産自動車株式会社
AT	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ATの分解組立と構成部品の構造及び作動を理解する。</li> <li>・自己診断ができる。</li> <li>・FR車用AT、オルタネータの脱着作業ができる。</li> <li>・電子制御回路の点検ができる</li> <li>・ストールテスト、ATフルードの油量及び状態の点検ができる</li> </ul>	日産自動車株式会社
定期点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自家用乗用車の1年点検を規程時間内で行うことができる。</li> <li>・点検整備記録簿が作成できる。</li> <li>・顧客管理システムによる見積もり作成と中間報告ができる。</li> </ul>	日産自動車株式会社
車検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法定2年点検を基準時間で確実にこなせる。</li> <li>・定期点検記録簿を漏れなく記入できる。</li> <li>・整備結果説明が、スムーズに行うことができる。</li> <li>・補器ベルトの交換作業、良否判定ができる。</li> <li>・リヤライニングの交換ができる。</li> </ul>	日産自動車株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員研修計画に基づき、研修プログラムを企画し、連携企業による研修を実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

NBC(日産自動車による技術研修)受講、整備主任者法令研修、整備主任者技術研修、安全運転管理者講習など

② 指導力の修得・向上のための研修等

JAMCA教職員研修、TEC(職業教育・キャリア教育財団)研修など

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

日産自動車、日産販売会社、UDトラックス、ミシュラン、モービル石油など企業による講習など

② 指導力の修得・向上のための研修等

JAMCA教職員研修、部品メーカー研修など

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施するにあたり、企業等と連携し、必要となる専門分野に関する知識、技術、技能などを教員が十分に理解・習得し、授業内容・方法の改善工夫等をして授業が実施できるよう、「教育研修」を行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準1 教育理念・目的・育成人材像等
(2)学校運営	基準2 学校運営
(3)教育活動	基準3 教育活動
(4)学修成果	基準4 学修成果
(5)学生支援	基準5 学生支援
(6)教育環境	基準6 教育環境
(7)学生の受入れ募集	基準7 学生の募集と受入れ
(8)財務	基準8 財務
(9)法令等の遵守	基準9 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準10 社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	基準11 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

評価結果から出てくる案をもとに学内で検討を行い、できることから活用していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
藤原 謙二	東海日産自動車株式会社 管理本部執行役員	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業代表
下村 卓也	名古屋市港区役所 区政部長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	自治体代表
江上 久志	7期生:愛知日産自動車株式会社	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	卒業生代表
田口 淳祥	合資会社田口チーゼル自動車修理工場	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	愛知県整備振興会連合会 相談役(7期卒業生)
諸戸 行雄	愛知県自動車車体整備協同組合 専務理事	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	団体代表
小出 学	日産東海テクノ株式会社 鳴尾工場 工場長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業代表
安田 大佑	9期生:Y'sラポール 代表	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	卒業生代表
中根 康介	22期生:愛知スズキ販売株式会社	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	卒業生代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:

<https://www.nissan-gakuen.ac.jp/school/aichi/pdf/2018-disclosure/hyouka-kaizen01.pdf>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動や学校運営に関する情報提供を積極的に行い、関係者の理解を深める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、沿革、特色、校則及び教育方針、教育基本理念、教育目標など
(2) 各学科等の教育	選考方法、定員数、教育課程、成績評価基準、取得資格、進路状況など
(3) 教職員	教職員数、組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、企業との実習、就職支援の取組み状況など
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動への取組み状況など
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い、就学支援の内容
(8) 学校の財務	貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:

授業科目等の概要

(工業専門課程一級自動車工学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎自動車工学	自動車の基本的な構造、構成部品を理解する。	1前	14.4		○			○	○			
○			エンジン構造1F	4ストローク1サイクルガソリンエンジンの構造、作動を理解する。	1前	48.0		○			○	○			
○			シャシ構造1F	1. 動力伝達装置の構成する各機構の構造、作動を理解する。(クラッチ、マニュアルトランスミッション) 2. タイヤ、ホイールの構造、作動を理解する。	1前	48.0		○			○	○			
○			電装品構造1F	1. 自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本を理解する。 2. バッテリーの構造、機能、整備を理解する。	1前	48.0		○			○	○			
○			自動車工学1F	1. レッカーの計算を理解する。 2. エンジン系の計算を理解する。 3. シャシ系の計算理解する。	1前	19.2		○			○	○			
○			エンジン1A	1. エンジンの基本的な構造を学ぶために行う。 2. エンジンの分解、組み付け方法と、基本注意事項を学ぶために行う。 3. エンジン分解後の各部の測定方法、調整方法、良否判定を学ぶために行う。 4. 自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本を理解する。	1前	52.8				05 2- 65 3- 41 23	○	○			
○			シャシ1A	1. 工作機械の操作及び危険を理解する。 2. ボルトの特徴を理解する。 3. 工作作業を通して、物の大切さを理解する。 4. 自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本を理解する。	1前	52.8					○	○	○		
○			車両1A	1. 実習授業で車両を取り扱う方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2. ジャッキアップで作業する場合の作業方法、そのときの注意点を学ぶために行う。 3. タイヤ脱着の基本手順を学び、作業姿勢、工具選択の重要性を理解するために行う。 4. 自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本を理解する。 5. リレー、複合スイッチの点検方法を学ぶ。	1前	52.8					○	○	○		
○			エンジン1B	1. エンジンの基本的な構造の復習と共にDOHCを学ぶために行う。 2. エンジンの分解、組み付け方法と、基本注意事項を学ぶために行う。 3. ノギス、マイクロメータ、ダイヤルゲージ、シリンダゲージ等を使った測定を学ぶために行う。 4. エンジン分解後の各部の測定方法、調整方法、良否判定を学ぶために行う。 5. 半導体を理解する。	1前	52.8					○	○	○		

(工業専門課程一級自動車工学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			シャシ1B	1. 計測機器を使用し、クラッチの分解、組み立て、点検調整、が出来作動が理解できる。 2. クラッチのトラブルシューティングができる。 3. マニュアルトランスミッションの分解組み立てを理解し、機能と構造を理解する。 4. マニュアルトランスミッションの動力伝達と変速比の計算が出来る。 5. プロペラシャフトの構造、機能、構成部品の理解。	1前	52.8			○	○		○			
○			車両1B	1. 実習授業で車両を取り扱う方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる。 2. リフトアップで作業する場合の作業方法、そのときの注意点を学ぶために行う。 3. ベルト、T/M、サスペンション脱着の基本手順を学び、作業姿勢、工具選択の重要性を理解するために行う。 4. 配線図の読み方を学ぶ。	1前	52.8			○	○		○			
○			オリエンテーション	1年間の授業、行事などの概要を理解し、目標と時期を整理するために実施する。 目指す目標の目的を理解し、達成するためにはどのような過程でどのような努力が必要かを考える。	1前	14.4		○							
○			整備機器取扱1F	自動車を整備する上での工具、測定具の構造、取り扱い、保守等を理解する。	1前	19.2		○			○		○		
○			エンジン構造1S	1. 4ストローク1サイクルエンジンの構造、作動を理解する。 2. エンジンの電子制御装置の構造、作動を理解する。	1後	48.0		○			○		○		
○			シャシ構造1S	ブレーキ装置を構成する各機構の構造、作動を理解する。	1後	48.0		○			○		○		
○			電装品構造1S	1. 電気の基礎的な原理法則を理解する。 2. 始動装置の構造、作動を理解する。 3. 点火装置の構造、作動を理解する。	1後	24.0		○			○		○		
○			自動車工学1S	1. レッカーの計算を理解する。 2. エンジン系の計算を理解する。 3. シャシ系の計算理解する。	1後	38.4		○			○		○		
○			自動車法規1S	1. 自動車の道路運送車両の保安基準に関わる項目を理解する。 2. 国家2級試験法令問題を理解する。	1後	24.0		○							
○			エンジン1C	1. ジーゼルエンジンの基本的な構造を学ぶために行う。 2. ガソリンエンジンとディーゼルエンジンの構造の違いについて学ぶ。 3. ジーゼルエンジンの分解、組み付け方法と、基本注意事項を学ぶために行う。 4. ジーゼルエンジン分解後の各部の測定方法、調整方法、良否判定を学ぶために行う。 5. 点火装置の構成部品、構造を理解する。 6. スパークプラグの構造、種類を理解する。	1後	52.8				○	○		○		



## 授業科目等の概要

(工業専門課程一級自動車工学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			シャシ1C	1. FF車の構造、特徴を理解する。 2. トランスファの機能と構造を覚える。 3. ラックアンドピニオンの機能と構造を覚える。 4. パーフィールドジョイントの機能と構造を覚える。 5. 始動装置の構造、作動を理解する。 6. スターターモータの分解、組み付けができるようになる。 7. スターターモータの点検方法を学ぶ。	1後	52.8			○	○		○			
○			車両1C	1. ドラムブレーキの分解、組み付け調整ができる。シューの残量 ホイールシリンダー分解、組み付け含む。 2. ディスクブレーキの分解、組み付け調整ができる。パット残量 キャリパーオーバーホール含む。 3. ディスクローター、ハブベアリングの測定又は、異常判定が出来る。 4. ブレークフルードの交換ができる。 5. 制動倍力装置の簡易点検ができる。 6. バッテリーの比重の測定方法が出来るようになる。	1後	52.8			○	○		○		○	
○			エンジン1D	1. 電子制御の基本的な仕組みを学ぶために行う。 2. テスタを使用して、各種センサの基本的な点検ができる。 3. コンサルト3の取り扱いの基礎を学ぶ。 4. オルタネーターの 構成部品、構造、作動を学ぶ。 5. オルタネーターの分解、組み付けができる。	1後	52.8			○	○		○			
○			シャシ1D	1. ディファレンシャルの機能と構造を覚える。 2. LSD (差動制限型ディファレンシャル) の機能と構造を覚える。 3. ファイナルギヤのバックラッシュ測定。ファイナルギヤの歯当り測定。 4. センターディファレンシャルの機能を覚える。 5. ワイパーの構成部品、構造を理解する。 6. ワイパーボードを利用し簡単な故障探究を学ぶ。	1後	52.8			○	○		○			
○			車両1D	1. 実習授業で車両を取り扱う方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2. 法定1年点検が販社で定められた基準時間内で出来ることを目的で行う。 3. ディスク・ブレーキ・パッドの交換が出来ることを目的で行う。 4. お客さま対応 (電話対応) 5. 計器装置の構成部品、作動を理解する。	1後	52.8			○	○		○		○	
○			エンジン整備A	ジーゼルエンジンの燃料装置の構造、作動を理解する。	2前	48.0		○			○		○		

(工業専門課程一級自動車工学科) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			シャシ整備 A	1. 動力伝達装置のオートマチックトランスミッションの構造、作動を理解する。 2. 動力伝達装置の整備、故障原因探求を理解する。 3. アクスル及びサスペンション装置のボデーの振動及び揺動を理解する。 4. ステアリング装置の構造、作動を理解する。 5. ホイールアライメントの構造、機能を理解する。	2前	48.0		○			○	○				
○			電装品整備 A	1. バッテリーの機能を理解する。 2. 自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本(半導体)を理解する。 3. エアコンディショナの構造、作動、整備を理解する。	2前	24.0		○				○	○			
○			自動車工学Ⅱ A	国家2級試験工学計算問題を理解する。	2前	38.4		○			○	○				
○			車体電装 1	1. エアコンサイクルを学ぶ。 2. エアコンガス回収、真空引き、チャージ方法を学ぶ。 3. オートエアコン自己診断を学ぶ。 4. ブロアーモータ回路を学ぶ。 5. ベルト、ライト、ワイパーなど部品脱着を学ぶ。	2前	40.0					○	○	○			○
○			エンジン電子制御 2	1. ガソリンエンジンの電子制御(噴射、スロットル、点火等)を理解する。 2. コンサルト(ダイアグノーシス)で自己診断、アクティブテスト等ができる。 3. コンサルトを使用して故障探求ができる。	2前	40.0					○	○	○			
○			車両実務 2	1. 実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2. 重量物脱着を行う場合の作業方法、そのときの注意点を学ぶために行う。 3. 共同作業の大切さを学ぶために行う。 4. 繊細な作業、大胆な作業の判断を付けるために行う。	2前	40.0					○	○	○			○
○			A/T	1. トルクコンバータの構造、作動、性能を理解させる。 2. プラネタリギヤの構造、作動、計算を理解させる。 3. ギヤユニットの構造、作動、点検を理解させる。 4. 油圧制御の概要、変速制御の仕組みを理解させる。	2前	40.0					○	○	○			
○			車体電装 2	1. 車両から電装部品を脱着する。 2. テスターなどを用いて正しい方法で電流・電圧を測定する。 3. コンサルトを用いてデータモニタを出力する。 4. ESMを活用し配線図を出力する。	2前	40.0					○	○	○			○

(工業専門課程一級自動車工学科) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			ジーゼルエンジン3	1. 噴射ポンプの構造・作動を学ぶために行う。 2. 噴射ポンプのガバナ(メカニカル・電子制御ともに)の役割・構造・作動を学ぶために行なう。 3. 噴射ポンプを分解することで、教科書を見てもイメージできないものを、実物で確認するために行なう。 4. 噴射ノズルの各部の名称、調整方法、良否判定を学ぶために行う。	2前	40.0			○	○			○			
○			パワーステアリング	1. 実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2. 重量物脱着を行う場合の作業方法、そのときの注意点を学ぶために行う。 3. 共同作業の大切さを学ぶために行う。 4. パワーステアリングの構造・作動を理解するために行う。	2前	40.0				○	○			○		
○			サスペンション	1. サスペンションの構造、機能を理解する。 4. ドアの建て付け調整ができる。 2. フロントサスペンション(ストラット型)の分解組み付けができる。 3. リヤサスペンション(トーションビーム型)の分解組付けができる。	2前	40.0				○	○			○		○
○			エンジン整備B	1. ジーゼルエンジンのコモンレール式燃料噴射装置の構造、作動を理解する。 2. ジーゼルエンジンの電気装置について理解する。	2後	24.0			○					○		
○			シャシ整備B	1. 動力伝達装置のインタアクスルディファレンシャルの構造、作動を理解する。 2. アクスル及びサスペンション装置の構造、作動を理解する。 3. ホイール及びタイヤの機能、整備を理解する。 4. ブレーキ装置の構造、作動を理解する。 5. 電気装置(安全装置及び付属装置)の構造、作動を理解する。	2後	24.0			○					○		
○			電装品整備B	1. バッテリーの機能を理解する。 2. 自動車に使用されている電装品を理解するために、電気の基本(半導体)を理解する。 3. エアコンディショナの構造、作動、整備を理解する。	2後	24.0			○					○		
○			整備機器取扱Ⅱ	1. 自動車検査用機器の取り扱いを理解する。 2. 国家2級試験 検査機器に係るシャシ、工学、法規分野の問題を理解する。	2後	19.2			○					○		
○			自動車検査	1. 自動車の道路運送車両法に関わる項目を理解する。 2. 国家2級試験法令問題を理解する。	2後	24.0			○					○		
○			自動車整備応用	国家試験模擬問題の実施及びその解説により、国家2級試験に出題される自動車整備知識の誓いを深める。	2後	38.4			○					○		

授業科目等の概要

(工業専門課程一級自動車工学科) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			車体電装3	1. パワーウインドウの概要・回路を理解する。 2. ドアロックの概要・回路を理解する。 3. ドアミラーの概要・回路を理解する。 4. 車両から指定された部品の取り外し、組み付け調整が行える。	2後	40.0			○	○		○			○	
○			2年点検	1. 実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2. 法定2年点検を理解し実施できる。 3. 正しく記録簿が記入できる。 4. 検査ラインが使用できるようにする。	2後	40.0			○	○			○			○
○			圧縮空気装置	1. 制動倍力装置の構造、作動を理解する。 2. エア・ブレーキの構造、作動を理解する。 3. 整備結果説明を理解する。	2後	40.0			○	○			○			○
○			エンジン電子制御3	1. ガソリンエンジンの電子制御（噴射、スロットル、点火等）を理解する。 2. コンサルト（ダイアグノーシス）で自己診断、等ができる。 3. コンサルトを使用して故障探求ができる。 4. A巡で行ったこと（エンジン電子制御2）を車両を使用して実施する。	2後	40.0			○	○			○			○
○			エンジン応用	1. 車体電装品の故障探求の考え方を学ぶために行う。 2. 車体外装部品及び内装部品の取り外し・取り扱い方法を学ぶために行う。 3. サーキットテスタの正しい取り扱い方法を学ぶために行う。	2後	40.0			○	○			○			
○			シャシ応用	1. 日産3級実技試験 エンジン 実施。 2. 日産3級実技試験 シャシ 実施。	2後	40.0			○	○			○			
○			お客様対応	1. 実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2. プロフィットの習熟。 3. 共同作業の大切さを学ぶために行う。 4. 繊細な作業、大胆な作業の判断を付けるために行う。	2後	40.0			○	○			○			○
○			電気自動車	1. EV、HEVの基礎知識を習得させる。 2. 低圧電気について理解させる。 3. EV安全作業を理解させる。 4. 応急手当を習得させる。	2後	40.0			○	○			○			○
○			オリエンテーション	就職、国家資格、授業に関するPDCAについて理解する。	3前	6.4			○				○			
○			ビジネス文書	ビジネス文書及びレポートの書き方を習得する	3前	3.2			○				○			
○			問題解決手法	演習を通じて問題解決手法を学ぶ	3前	8.0			○				○			
○			お客さま対応	販売会社での接客技法を習得する	3前	51.2			○				○			
○			消費者心理	マーケティング手法を習得する	3前	6.4			○				○			

## 授業科目等の概要

(工業専門課程一級自動車工学科) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			プレゼン	プレゼンスキルを習得する	3前	8.0		○			○	○				
○			リーダーシップ	リーダーにとって必要なものを理解する	3前	1.6		○			○	○				
○			業界知識	整備業界の知識を得る	3前	6.4		○			○	○				
○			整備機器作業	国家一級テキスト「エンジン電子制御」の電気回路、計測機器	3前	27.2		○			○	○				
○			環境・安全	整備業界における環境保全及び安全管理の知識を習得する	3前	24.0		○			○	○				
○			自動車検査	道路運送車両の保安基準を理解し、検査時の計算が出来る	3前	20.8		○			○	○				
○			自動車法規	道路運送車両法を理解し、検査時の計算が出来る	3前	33.6		○			○	○				
○			エンジンA	国家一級テキスト「エンジン電子制御」の高度整備技術を理解する。	3前	56.0		○			○	○				
○			シャシA	国家一級テキスト「シャシ電子制御」の電子制御ATとオートエアコンの構造・作動・点検方法を習得する	3前	56.0		○			○	○				
○			新技術A	国家一級テキスト「自動車新技術」のエンジン分野を理解する。	3前	43.2		○			○	○				
○			計測	1. 計測機器の取り扱いを習得する。 2. 電気計測時のアースポイントの考え方を身に付ける。 3. デジタルサーキットテスタ、外部診断器、発振器、安定化電源装置の取り扱いを身に付ける。 4. オシロスコープの取り扱いを身に付ける。	3前	33.6				○	○		○		○	
○			工作	1. はんだ付け作業が習得できる。 2. 端子抜きが習得できる。 3. 作業上の注意点を遵守できる。	3前	24.0					○	○		○		
○			車体電装	1. 各装置の制御が理解できる。 2. 回路図から故障探求が出来る。	3前	81.6					○	○		○		○
○			ECCS	1. 装置の制御が理解できる。 2. 各制御内容と回路図から故障探求が出来る。	3前	94.4					○	○		○		○
○			エアコン	1. 冷凍サイクルが理解できる。 2. 各制御内容と回路図から故障探求が出来る。	3前	59.2					○	○		○		○
○			工場経営B	工場経営に関する業務を理解できる	3後	6.4		○			○	○				
○			エンジンB	国家一級テキスト「エンジン電子制御」のCANと故障探求を理解する。	3後	27.2		○			○	○				
○			シャシB	国家一級テキスト「シャシ電子制御」のEPS、ABS、振動・騒音について理解する。	3後	62.4		○			○	○				
○			新技術B	自動車新技術のテキストを理解する	3後	40.0		○			○	○				
○			総合診断	総合診断・環境安全のテキストで総合診断の部分を理解する	3後	20.8		○			○	○				

## 授業科目等の概要

(工業専門課程一級自動車工学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			日産技術B3	日産TSのスキルを身につける。	3後	72.0				○	○		○		○
○			A/T	1. FR用 4速AT、5速ATの仕組みを理解する。 2. FF用 4速ATの仕組みを理解する。 3. AT、CVTの電子制御を理解する。 4. フェイルセーフを理解する。 5. 故障探求の方法を理解する。	3後	84.8				○	○		○		○
○			新技術	1. ABSの制御、作動を理解する。 2. CVTの制御、作動を理解する。	3後	72.0				○	○		○		○
○			騒音・振動	1. 振動について理解する。 2. 騒音について理解する。 3. 振動と騒音の関係について理解する。	3後	72.0				○	○		○		○
○			検査実務	1. 継続検査を含む車両法、保安基準の確認。 2. 検査機器の使用方法を習得する。	3後	20.8				○	○		○		○
○			インターンシップ	現場体験にて、自動車の点検整備、故障原因探求、総合診断を行う。	3後	6.4				○		○	○		○
○			日産TA3	現場体験にて、自動車の点検整備、故障原因探求、総合診断を行う。	3後	1.6				○		○	○		○
○			コンプライアンス	コンプライアンスの考え方を理解し、社会に出たときに役立てられる	4前	6.4			○			○	○		○
○			工場経営C	プロフィットの操作を理解する。	4前	3.2			○			○	○		○
○			定期点検I	1. 整備工場で実施する法定点検を習得する。 2. 基本作業の中で部品良否判定のポイントを理解・習得する。	4前	97.6				○	○		○		○
○			定期点検II	1. 整備工場で実施する法定点検を習得する。 2. 基本作業の中で部品良否判定のポイントを理解・習得する。 3. 車両、状況に見合った点検を考慮して実行できる。	4前	65.6				○	○		○		○
○			インターンシップ前実習	1. 整備工場で実施する法定点検を習得する。 2. 基本作業の中で部品良否判定のポイントを理解・習得する。 3. 点検に付随した部品の脱着ができる	4前	68.8				○	○		○		○
○			インターンシップ	1. 整備工場で実施する作業を習得する。 2. 整備工場におけるチームワークを体験する。	4前	240.0				○		○			○
○			インターンシップフォロー	インターンシップ体験での課題をもとに作業を習得する。	4前	64.0				○		○			○
○			日産技術A	内外装部品の脱着を通して、内装部品の取り扱い及び作業時の注意点を習得する。	4前	59.2				○	○		○		○
○			オリエンテーション	就職、国家資格、授業に関するPDCAについて理解する。	4前	3.2			○						○
○			日産資格TS2	日産整備士資格TS2級内容を理解する。	4前	1.6			○			○	○		○
○			卒業試験	エンジン、シャシ、電装、故障原因探求、総合診断、環境安全について習得状況を確認、判定する。	4後	1.6			○			○	○		○

## 授業科目等の概要

(工業専門課程一級自動車工学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			高度故障探求	CAN通信系の故障探求作業時の考え方を習得する。	4後	40.0			○	○		○		○	
○			評価実習Ⅰ	基本作業とともに部品良否判定を行い、不具合部品の交換を行う。	4後	52.8			○	○		○			
○			評価実習Ⅱ	内装部品の脱着を通して、内装部品の取り扱い及び作業時の注意点を習得する。	4後	65.6			○	○		○			
○			卒業研究	自動車に関する研究について、計画・実施・報告書(PPT)の作成を行い、探究心を育てる。	4後	64.0			○	○		○			
○			E V	EVの構造を学び、部品の脱着、外部診断機での作業を行うことで、正しい取り扱いを考慮した作業ができる。	4後	24.0			○	○		○			
○			日産技術B4	低級音と雨漏れに対して、材料や使用部位の違いを学び、修理に役立てることが出来る。	4後	64.0			○	○		○		○	
○			お客様対応	整備工場に必要なお客様対応を習得する	4通	60.8		○			○	○		○	
合計					100			4092.8	単位時間(		単位)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1, 2年次：学科は各期に二度、実習は各テーマ終了後に試験を実施し、70点以上で履修とする。		1学年の学期区分	2期
3, 4年次：学科、実習ともにテーマ終了後に試験し、70点以上で履修とする。 全ての教科において既定出席率を満たし、未履修がなければ卒業を認める。		1学期の授業期間	25週

## (留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。